

東日本大震災 4 年目に向けて、原発事故の被害をどう回復するか

原発避難者講演会

第2弾!

2011年3月11日の東日本大震災発生から3回目の冬を迎えました。しかし、福島第一原発では汚染水問題など、およそ「収束」とはいえない状況が続いています。原発事故で避難をしている方々は、今も14万人以上にのぼります。一方、時間の経過とともに、福島事故の記憶が「風化」しつつあるという危惧も聞かれます。

私たちは、震災発生から2年4ヵ月の7月11日、原発事故で大阪に避難してこられた2人の方を本学にお招きし、講演会を開催しました。その模様は、新聞、ラジオ、テレビで報道され、大変盛況でした。今回はその第2弾です。第1弾のあと、関西への避難者たちは東京電力と国を相手どって、訴訟を提起しました(9月)。今回は、そのことに焦点を当てたいと思います。

発災から4年目を迎えようとするいま。私たちの身近にいる当事者の声をあらためて受け止め、原発事故の被害が継続中だという事実を、ぜひ感じとっていただきたいと思います。



(写真は前回講演会の模様)

日時 2013年12月19日(木) 14:40~16:10

会場 大阪市立大学杉本キャンパス全学共通教育棟810教室

講師 ・森松明希子 氏(福島県郡山市から母子避難、原発賠償関西訴訟原告団代表)
・原発賠償関西訴訟弁護団

※ 森松さんの手記『母子避難、心の軌跡』(かもがわ出版、12月刊)の出版記念講演会も兼ねています。

主催 大阪市立大学商学部 除本理史ゼミ

事前申し込み不要(先着順)、参加費無料: どなたでもご参加いただけます

問合せ先 大阪市立大学 商学部担当 06-6605-2201